

ギャラリー展示

「ゲンビどこでも企画公募2015展」“オリエンタルホテル広島賞”受賞者企画展

「ブンするポーコ」 小林 椋展



- 期間: 2016年11月19日(土)～11月29日(火) 会期中無休 / 入場無料
- 時間: 10:30～19:30(最終日は17:00まで)
- 場所: オリエンタルホテル広島 1階 オリエンタルデザインギャラリー(広島市中区田中町6-10)
- 協力: 広島市現代美術館

■ 本展について

2012年より、オリエンタルデザインギャラリーでは、広島市現代美術館開催の公募展「ゲンビどこでも企画公募」“オリエンタルホテル広島賞”の副賞として、受賞者の企画展を開催しています。本展は、「ゲンビどこでも企画公募2015展」“オリエンタルホテル広島賞”を受賞した、小林椋さんの企画展です。

■ 展示によせて

“ブン”や“ポーコ”といった言葉には、とりたてて意味はない。それらは所謂、擬音語や擬態語のようなものである。“ブン”という言葉を見たとき、漫画でキャラクターがスネて怒ったときの表現としての“ぶんっ”といったオノマトペを思い浮かべる人もいるかもしれない。それは、ある特定の文化に由来する言葉の発音に対するイメージといえる。そうすると「ブンするポーコ」というタイトルからして“ブンする”というように“～する”という語によって“ブン”が動詞化されていることが窺える。結果として、「“ポーコ”が何かスネて怒ったような動作」という様子が導き出されるかもしれない。しかし、“ポーコ”とはいったい何であるかは依然としてハッキリとはしない。

“ブーバ/キキ効果”といわれる言語の発音と視覚的図形の印象との関係性がある。直線からなるトゲトゲした図形と曲線からなるクネクネした図形、どちらが“ブーバ”でどちらが“キキ”ですかと被験者に問う。すると、どの言語圏や文化圏の人でも、大多数がトゲトゲした形を“キキ”、クネクネした形を“ブーバ”であると答えるというもの。この発音に対するイメージは、先に述べた“ブン”という語が漫画のオノマトペを連想させるといった、特定の文化に由来するイメージではない。そうした、文化圏を越えた発音に対するイメージは“ブン”や“ポーコ”といった意味の不明瞭な語を読み解く有効な手立てかもしれない。この展覧会に展示されている作品群は、簡単にいってしまえば動く音響彫刻のようなものである。しかし、これらの装置は、動きに付随する些細な音に対して無意味なまでに“何か”に対するデザインが施されている。そのデザインは必ずしも“音をたてる”ために必然的に生まれたものではなく、目的が不明瞭なままに、装置にまわりついている。目的の見えない(あるいは、そもそもない)形や色、ときには動きに、意味の不明瞭な発音をあててみる。互いを互いの言語で読みながら、見えないものを確定することではなく、絶えず変化する距離のなかで一時的な落とし所やギャップを生成し続ける。それは、物理現象としての聴こえる音だけではない、これらの作品群の捉え方を探ってみるということ。

■お問い合わせ

オリエンタルデザインギャラリー TEL:082-240-9463(直) (受付時間 11:00~19:00)
※講演会・レセプションの開催はございません。

■作家プロフィール



小林椋 Muku Kobayashi

1992年生まれ、多摩美術大学大学院修士課程 情報デザイン領域 在籍。音や聴取をテーマに簡単な動きをする機構や廃材などのモノを組み合わせたインスタレーションの制作を行う。主な展覧会に「TOKYO EXPERIMENTAL FESTIVAL Vol. 9」(トーキョーワンダーサイト本郷、2014)、「ゲンビどこでも企画公募2015展」(旧日本銀行広島支店、2015)など。

【本イベントに関するお問合せ先】

オリエンタルホテル広島 セールス&マーケティング部 PR TEL:082-240-9462 (直) FAX:082-240-9460
〒730-0026 広島市中区田中町6-10

山根 春菜 E-mail:haruna.yamane@oriental-hiroshima.com

※画像のデータをお送りいたします。上記電話番号またはメールアドレスまでご連絡ください。